

花見川区地域カルテ

花見川区役所

令和8年1月

目次

1 花見川区の概況

(1) 花見川区の位置、地勢	1
----------------	---

(2) 花見川区の人口と年齢別構成

・人口の推移	3
・年齢別構成の推移	3
・現在の年齢別構成	4
・今後の年齢別構成推計	4

2 花見川区内各地区の概況

・区内9地区（中学校区）の構成	5
・各地区の概要	6

3 各地区の人口と年齢別構成

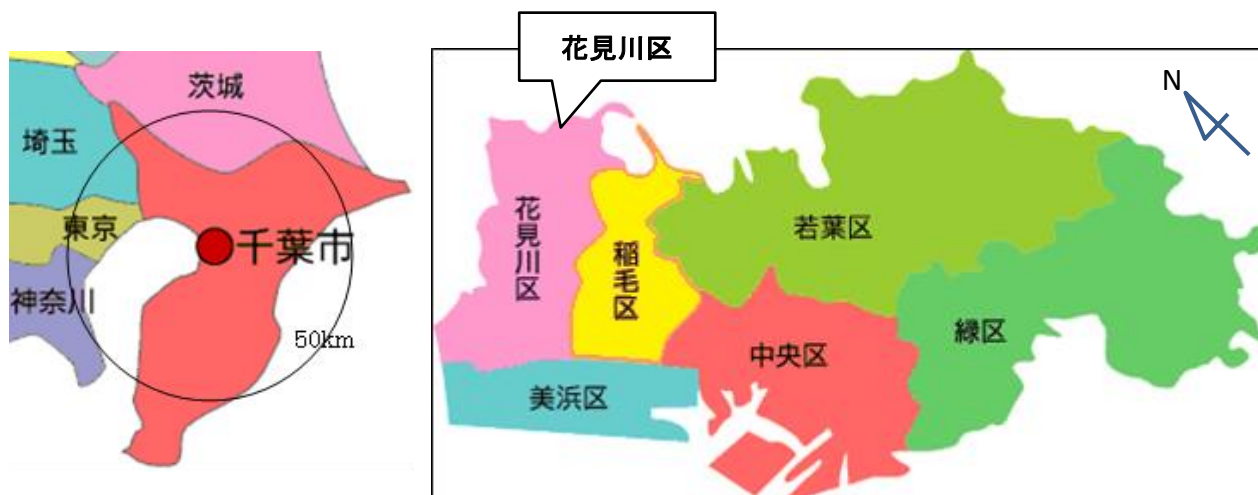
・中学校区別人口詳細	8
・年齢別構成	9
・人口の推移	10
・年齢別人口構成の推移	11
・こども・高齢者数の推移	12
・高齢者・同予備軍の推移	13

1 花見川区の概況

(1) 花見川区の位置、地勢

花見川区は、千葉市の北西部に位置し、北部は八千代市、北東部は佐倉市及び四街道市、西部は習志野市に隣接しています。

区域は南北に長く、その中央を区名の由来ともなっている区のシンボル「花見川」が北部から南部へと流下し、流域は豊かな河川空間が広がっています。



【面積】 34.19 km² (6区中、4番目)

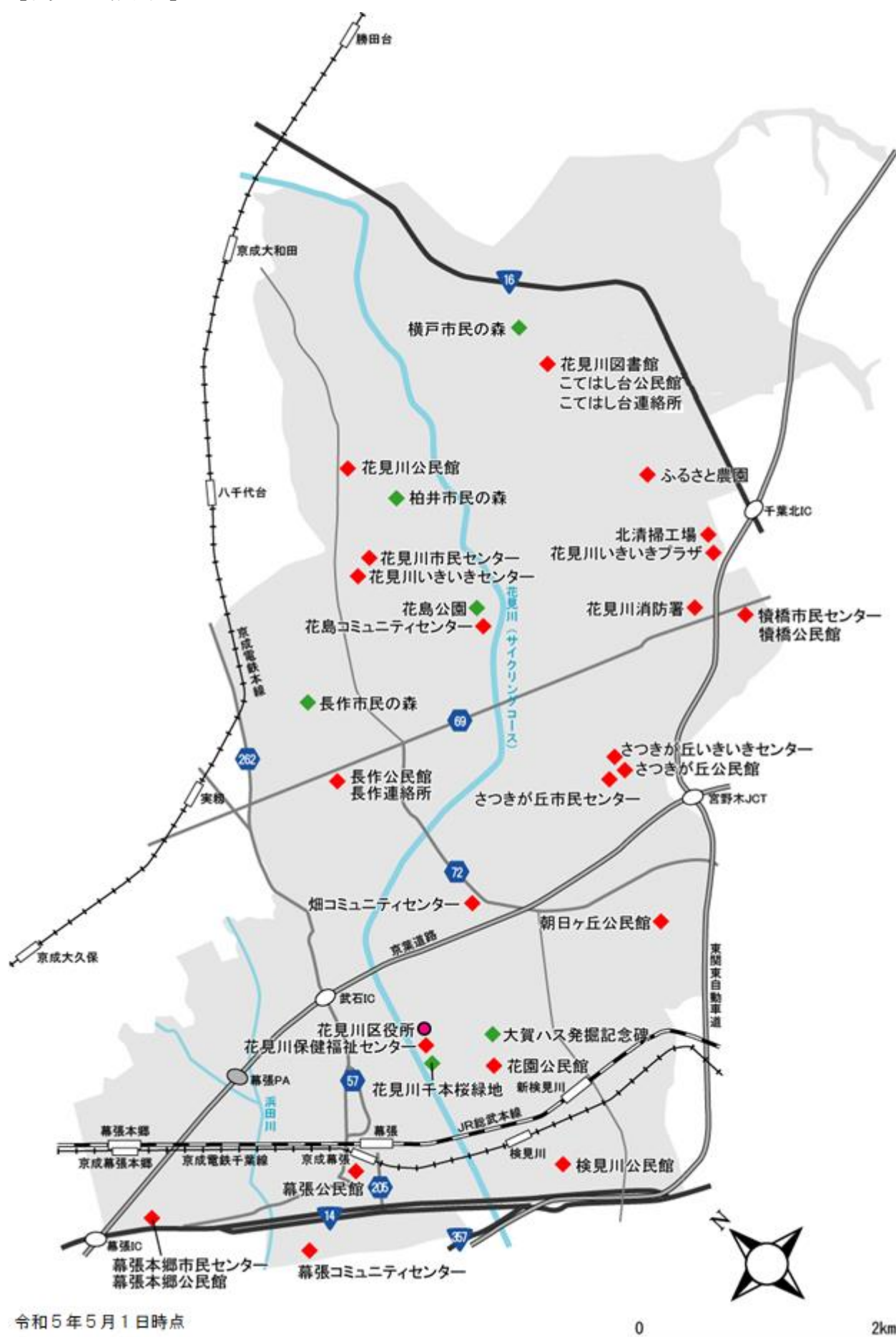
【人口】 176,977人 (6区中、2番目) (令和7年3月31日時点)

【交通】 南部にはJR総武本線、京成電鉄千葉線が並行して区域を横断し、北西部には区域に沿うように京成電鉄本線が通っており、バス路線が各地区と鉄道駅とを結んでいます。また、道路網は、高速交通網の結節点となる京葉道路の幕張ICや武石ICがあるほか、国道14号、16号、357号、主要地方道の千葉鎌ヶ谷松戸線(57)、長沼船橋線(69)、穴川天戸線(72)などが主要道路として利用されています。

【区域内の特徴】

- ・ 区の中央を流れる花見川沿いには、野菜を中心とした都市型農業の営まれる農地や豊かな緑が残されているほか、桜並木が点在し、河川の景観を彩っており、釣り場としても利用されています。
- ・ 区の北部から南部にかけては、み春野団地、こてはし台団地、花見川団地、さつきが丘団地、にれの木台団地(朝日ヶ丘)、西小中台団地といった大規模な住宅団地が造成されています。一方、千葉鉄工業団地が千種町にあるなど、住居や商業に加え、工業的な土地利用がされています。
- ・ 区内は市街化区域と市街化調整区域が混在しており、区域の約5割を占める市街化調整区域の大部分は農地、山林などとなっているほか、古くからの集落があります。

【花見川区概況図】

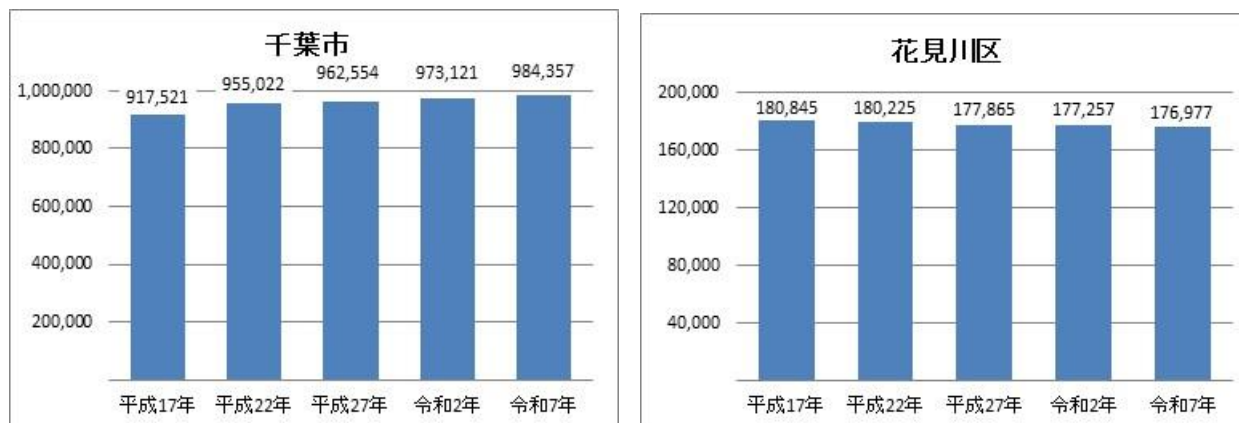


令和5年5月1日時点

0 2km

(2) 花見川区の人口と年齢別構成

【人口の推移】



資料：千葉市政策企画課統計室 年齢別人口（住民基本台帳人口・R7年3月末現在）

- ・千葉市全体の人口は、984,357人で、増加し続けておりますが、今後は緩やかな減少局面に入るものと推計されています。
- ・一方、花見川区の人口は、176,977人で、平成15年の181,521人をピークに減少に転じており、今後も減少傾向が続くものと考えられます。

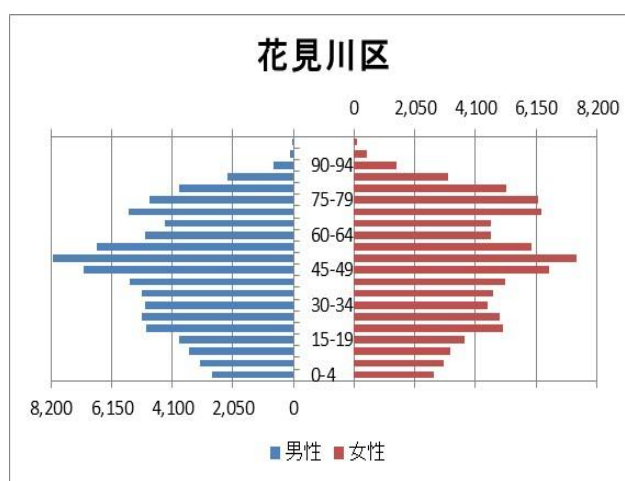
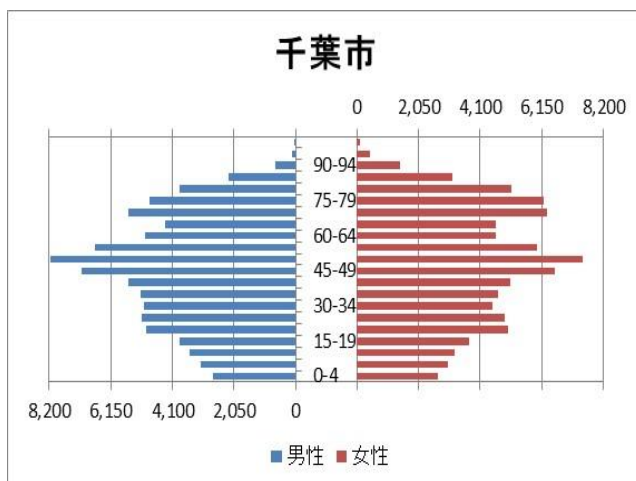
【年齢別構成の推移】



資料：千葉市政策企画課統計室 年齢別人口（住民基本台帳人口・R7年3月末現在）

- ・高齢化率については、過去20年間、千葉市全体、花見川区ともに一貫して高まっていますが、花見川区の高齢化の伸びは千葉市全体を上回っており、20年前には千葉市全体の14.9%と同等であった高齢化率が、現在は、千葉市全体の26.2%に対し、27.4%と千葉市全体を上回っています。
- ・また、過去20年間の高齢化率を5年毎の増減率で分析すると、千葉市全体が+4.1ポイント→+4.1ポイント→+2.1ポイント→+0.2ポイントに対し、花見川区では+5.0ポイント→+4.7ポイント→+2.2ポイント→-0.3ポイントと、市全体より大きく増加しており、高齢化が加速していることがわかります。

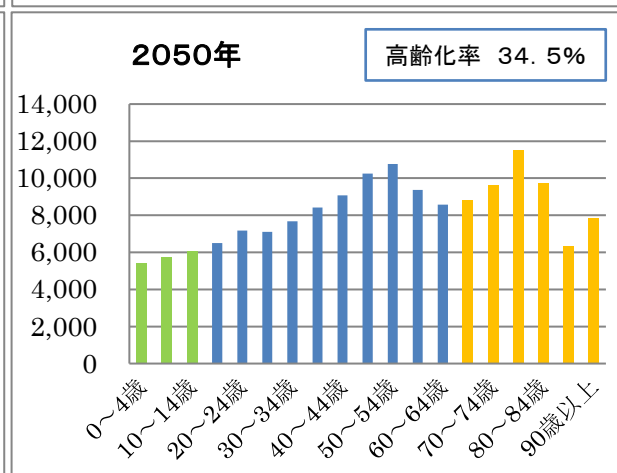
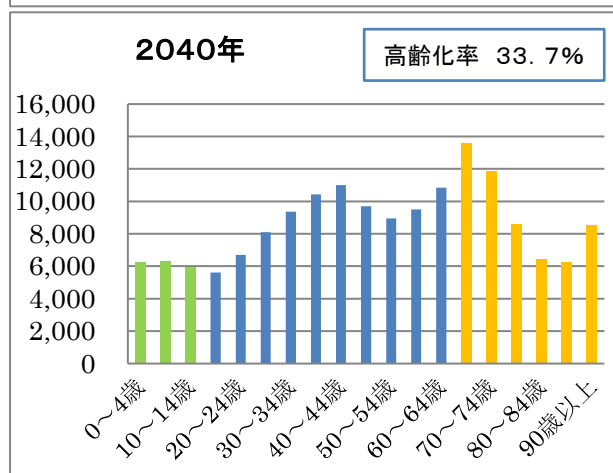
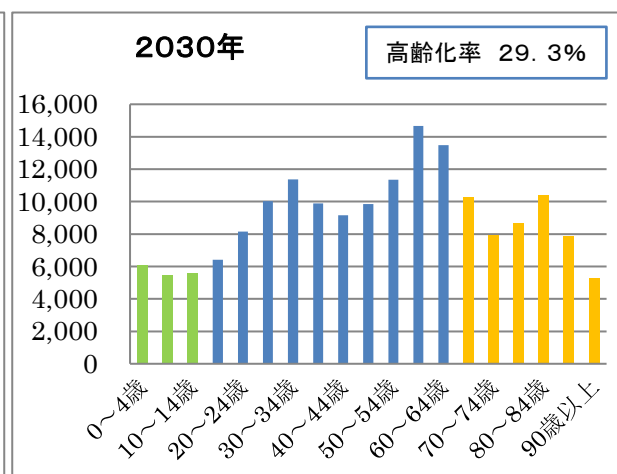
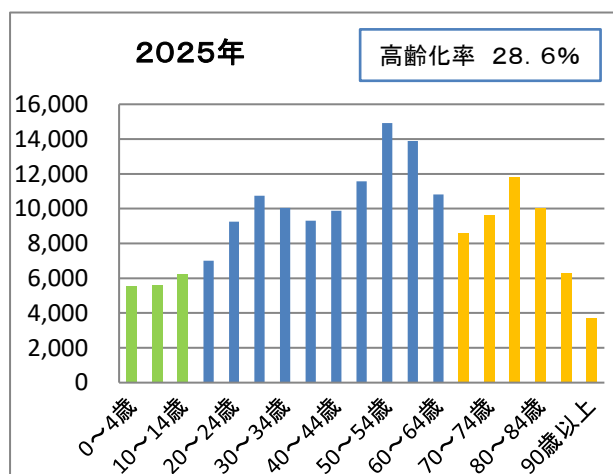
【現在の年齢別構成（市・区）】



資料：千葉市政策企画課統計室 年齢別人口（住民基本台帳人口・R7年3月末現在）

- ・千葉市全体と花見川区のいずれも50代後半が多く、人口ピラミッドの形状は似ている状況となっています。

【花見川区の今後の年齢別構成推計】



資料：千葉市政策企画課 5歳階級別人口推計

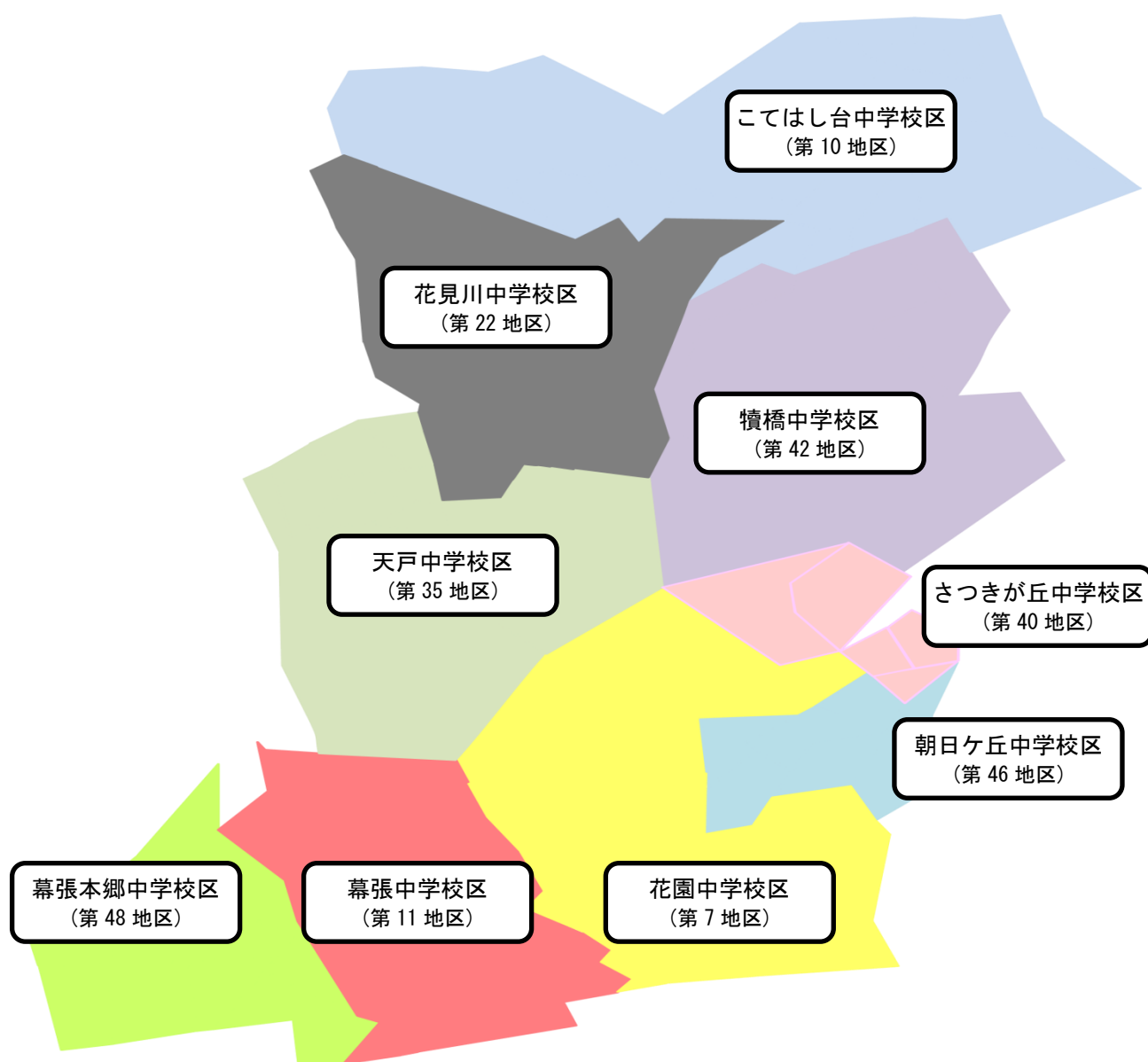
【令和2年（2020年）国勢調査の結果をもとに将来人口を推計】

- ・今後も高齢化の進展は止まらなると予測されます。現時点で年齢構成比の高い40代が65歳以上となる2040年には一気に高まり、高齢化率33.7%に達すると推測されます。

2 花見川区各地区の概況

【区内9地区（中学校区）の構成】

地区名	該当町丁名
花園中学校区 第7地区	瑞穂・検見川町・花園・朝日ヶ丘・浪花町・畑町
こてはし台中学校区 第10地区	内山町・宇那谷町・こてはし台・大日町・横戸町・横戸台・み春野
幕張中学校区 第11地区	幕張町・武石町
花見川中学校区 第22地区	天戸町・柏井町・柏井・花島町・花見川・横戸町
天戸中学校区 第35地区	天戸町・作新台・長作町・長作台
さつきが丘中学校区 第40地区	さつきが丘・宮野木台
犢橋中学校区 第42地区	犢橋町・三角町・千種町
朝日ヶ丘中学校区 第46地区	朝日ヶ丘・西小中台・宮野木台
幕張本郷中学校区 第48地区	幕張町・幕張本郷



【各地区の概要】

地区名	小中学校等	公共施設	主な施設及び地区特性
花園中学校区 (第7地区)	花園中 検見川小 花園小 畑小 瑞穂小 千葉朝鮮初中級学校	花見川区役所 花見川保健福祉センター 畑コミュニティセンター みずほハスの花図書館 検見川公民館 花見川消防署畑出張所 花園公民館 しらさぎ公園(千本桜緑地)	JR新検見川駅 京成検見川駅 東大検見川総合運動場 東大旧緑地植物実験所 広域避難場所(東大検見川総合運動場) 【地区特性】 北部は農地が広がり、中心部には花見川区役所、南部にはJR新検見川駅、京成検見川駅がある。
こてはし台中学校区 (第10地区)	こてはし台中 こてはし台小 横戸小 県立千葉特別支援学校	花見川図書館 こてはし台公民館 こてはし台連絡所	横戸市民の森 横戸緑地 柏井浄水場 【地区特性】 花見川区の北部に位置し、主要道路(国道16号)が北西部より南東部を横断、南部のこてはし台中学校を中心に住宅街が広がる。
幕張中学校区 (第11地区)	幕張中 幕張小 幕張東小 幕張南小	幕張コミュニティセンター 幕張公民館 花見川消防署幕張出張所 幕張舟溜跡公園	JR幕張駅 京成幕張駅 【地区特性】 北部は農地が広がり、京葉道路武石ICがある。 南部はJR幕張駅、京成幕張駅があり、主要道路(国道14号)付近には大型商業施設がある。
花見川中学校区 (第22地区)	花見川中 花見川小 花島小 柏井小 県立柏井高校	花見川市民センター 花島コミュニティセンター 花見川図書館花見川団地分館 花見川公民館 花見川・稲毛公園緑地事務所 花島公園	花見川団地 柏井市民の森 広域避難場所(鷹之台CC、花見川中学校一帯) 【地区特性】 北部は京成大和田駅(八千代市)に近く、住宅地と鷹之台カンツリー倶楽部があり、南部は大規模団地(花見川団地)と花島公園がある。
天戸中学校区 (第35地区)	天戸中 長作小 作新小	長作公民館 長作連絡所 花見川消防署作新台出張所	長作市民の森 【地区特性】 県道(長沼船橋線)が横断し、北側は隣接する花見川団地付近に住宅地が多く、南側は農地が広がる。

地区名	小中学校等	公共施設	主な施設及び地区特性
さつきが丘中学校区 (第 40 地区)	さつきが丘中 さつきが丘東小 さつきが丘西小	さつきが丘市民センター さつきが丘公民館 犢橋貝塚公園	さつきが丘団地 花見川郵便局 【地区特性】 大規模団地(さつきが丘団地)を中心に住宅が密集している。中央部には犢橋貝塚公園・さつきが丘西公園があり、環境にも配慮したまちづくりが実現されている。
犢橋中学校区 (第 42 地区)	犢橋中 緑が丘中 (稲毛 41 中学校区) 犢橋小 県立犢橋高校	犢橋市民センター 犢橋公民館 花見川消防署 北清掃工場 花見川いきいきプラザ こてはし温水プール ふるさと農園	鉄工団地 千葉工業大学グラウンド 広域避難場所(千葉工業大学グラウンド一帯) 【地区特性】 北部には、大規模団地(鉄工団地)があり、隣接して千葉工業大学グラウンドがある。 南部は、自然豊かな地域となっている。
朝日ヶ丘中学校区 (第 46 地区)	朝日ヶ丘中 西小中台小 朝日ヶ丘小	朝日ヶ丘公民館	にれの木台団地 西小中台団地 【地区特性】 大規模団地(にれの木台団地)を中心に住宅地が広がる。花見川区内中学校地区の面積としては最小。
幕張本郷中学校区 (第 48 地区)	幕張本郷中 西の谷小 上の台小	幕張本郷市民センター 幕張本郷公民館 一本松公園 幕張台公園	JR幕張本郷駅 京成幕張本郷駅 【地区特性】 中学校地区としては狭いが、中央にJR幕張本郷駅、京成幕張本郷駅、南部に京葉道路幕張 IC、国道16号線が横断しており、商業施設や住宅地域が多数ある。

3 各地区の人口と年齢別構成

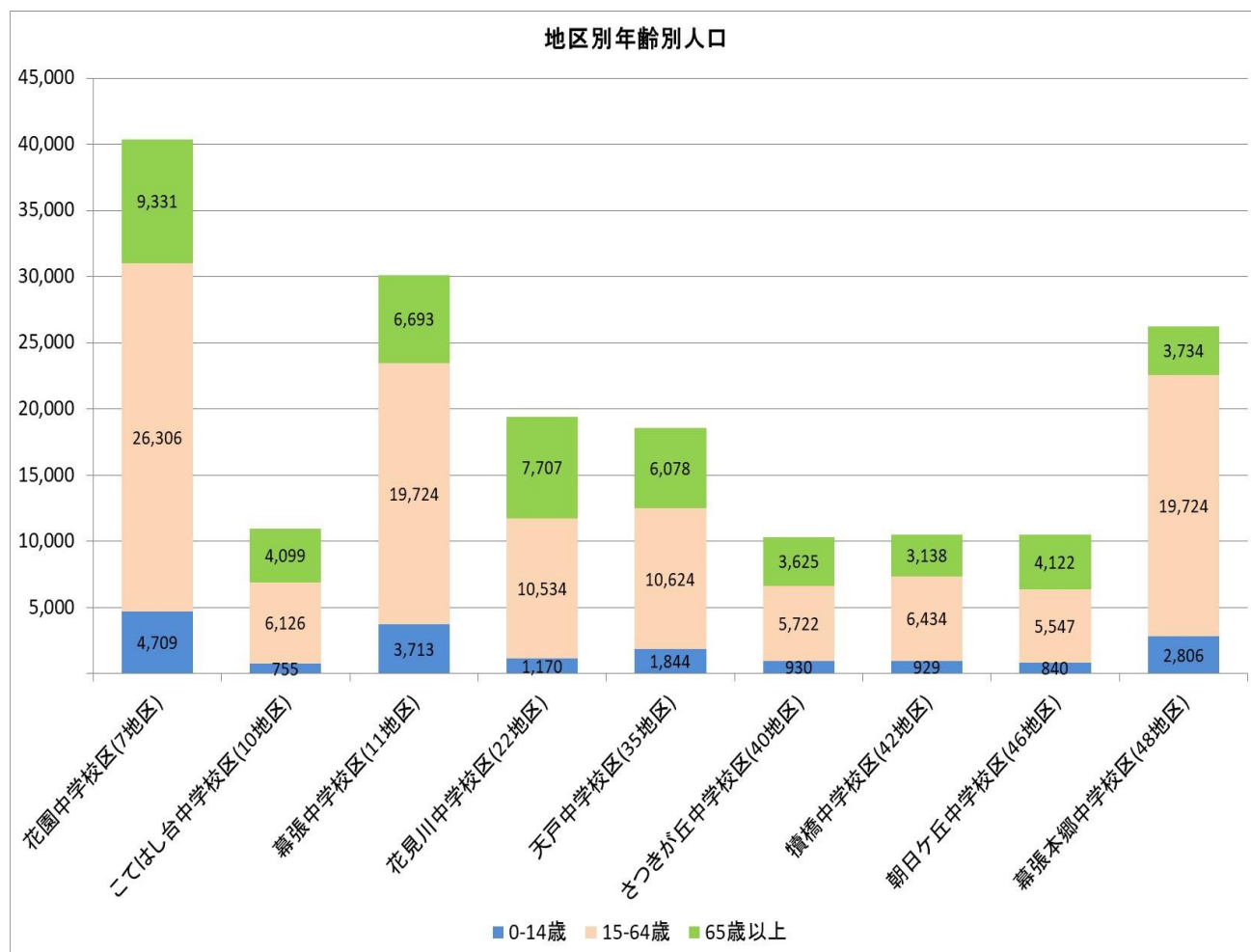
【中学校区別人口詳細】

地区名		人口	0～14歳		15～64歳		65歳以上	
			人	%	人	%	人	%
花園中学校区	第7地区	40,346	4,709	11.7	26,306	65.2	9,331	23.1
こてはし台中学校区	第10地区	10,980	755	6.9	6,126	55.8	4,099	37.3
幕張中学校区	第11地区	30,130	3,713	12.3	19,724	65.5	6,693	22.2
花見川中学校区	第22地区	19,411	1,170	6.0	10,534	54.3	7,707	39.7
天戸中学校区	第35地区	18,546	1,844	9.9	10,624	57.3	6,078	32.8
さつきが丘中学校区	第40地区	10,277	930	9.0	5,722	55.7	3,625	35.3
犢橋中学校区	第42地区	10,501	929	8.8	6,434	61.3	3,138	29.9
朝日ヶ丘中学校区	第46地区	10,509	840	8.0	5,547	52.8	4,122	39.2
幕張本郷中学校区	第48地区	26,264	2,806	10.7	19,724	75.1	3,734	14.2

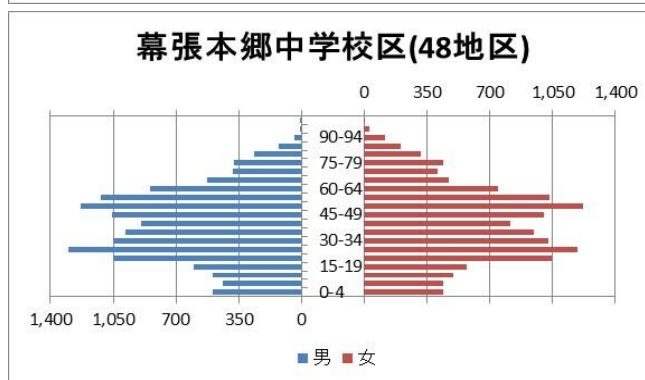
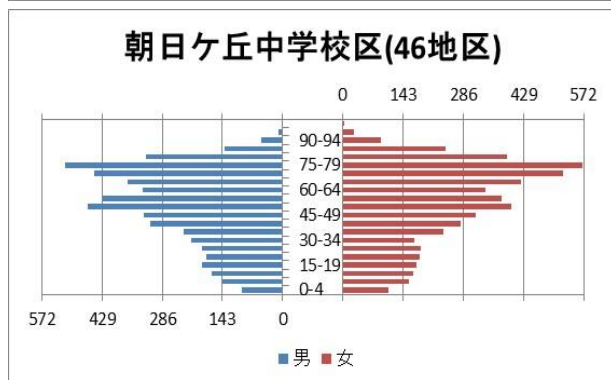
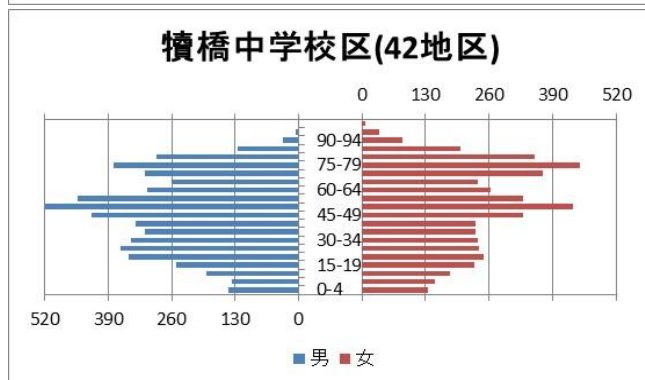
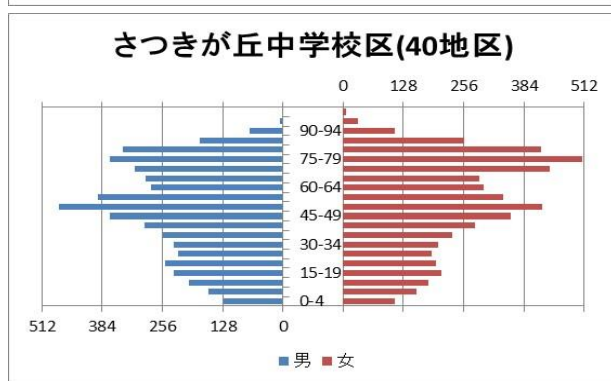
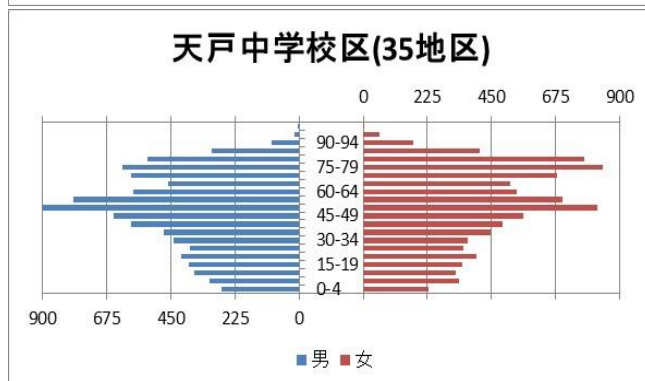
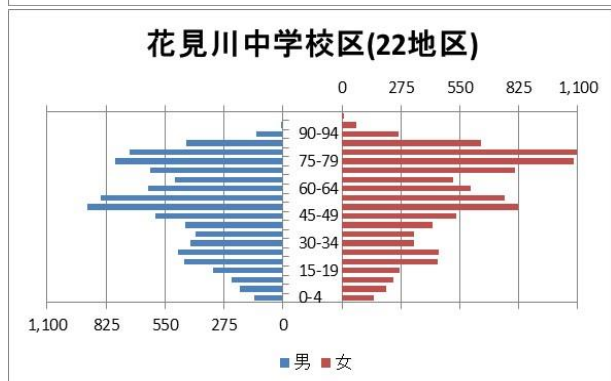
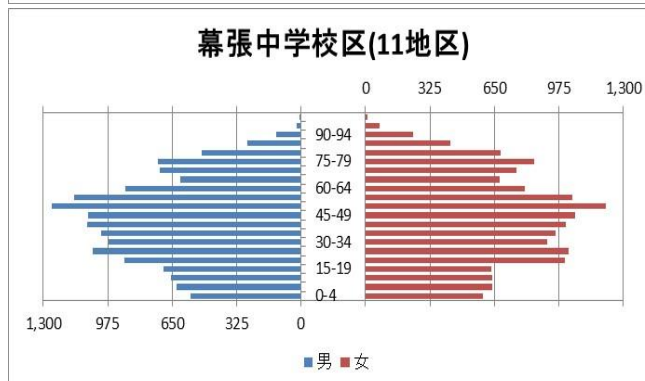
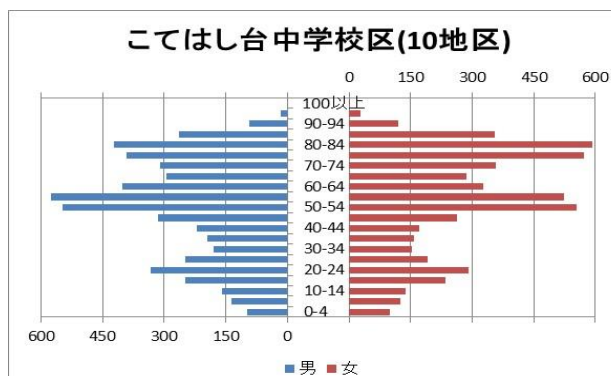
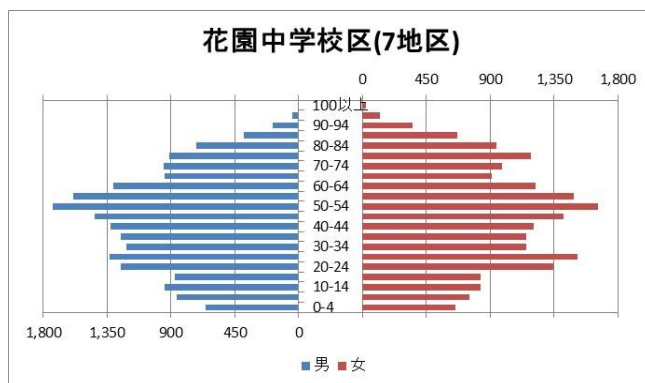
資料：千葉市政策企画課統計室 町丁別年齢別人口（R7年3月末現在）

※朝日ヶ丘1～3丁目は第7地区、朝日ヶ丘4・5丁目は第46地区、幕張町1丁目は第48地区、幕張町2～6丁目は第11地区、宮野木台1丁目は第46地区、宮野木台2～4丁目は第40地区、天戸町は第35地区、横戸町は第22地区としてそれぞれ集計した。

※年齢別人口が公表されていない町丁があるため、各地区の合計は花見川区人口と一致しない。



【年齢別構成】

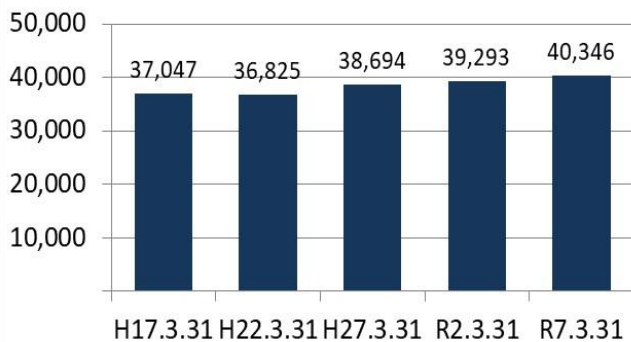


(ポイント)

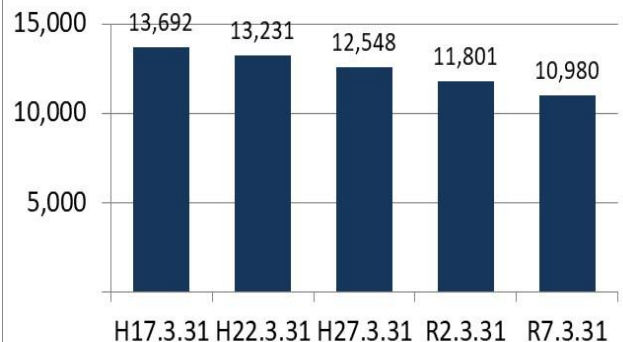
- ・中央部から北部の地区では、少子高齢化が進んだ逆三角形の形状が多くみられる。
- ・南部の花園中学校区(第7地区)、幕張中学校区(第11地区)、幕張本郷中学校区(第48地区)では20代後半～50代が多い、樽型に近い形状の人口ピラミッドとなっている。

【人口の推移】

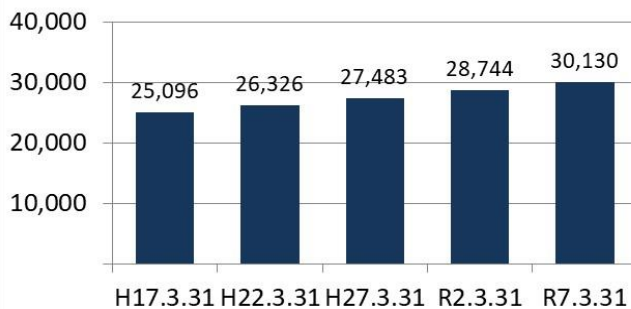
花園中学校区(7地区)



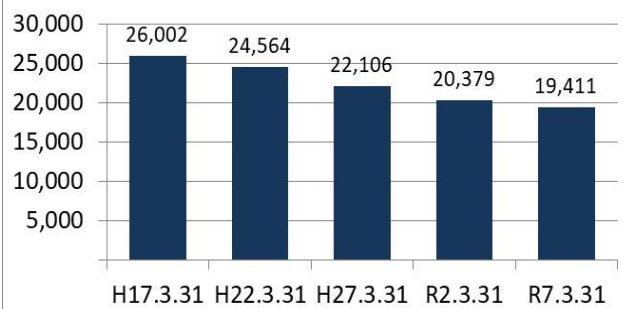
こてはし台中学校区(10地区)



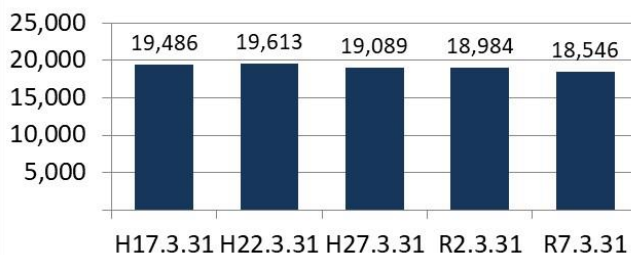
幕張中学校区(11地区)



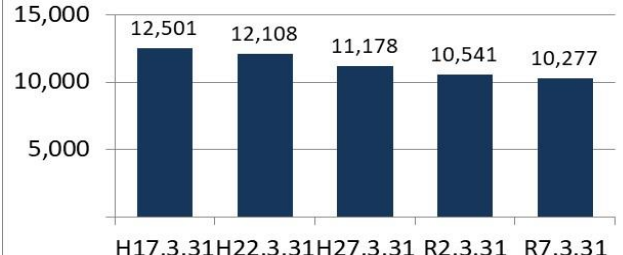
花見川中学校区(22地区)



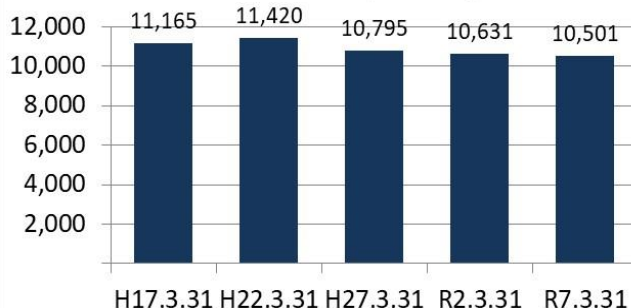
天戸中学校区(35地区)



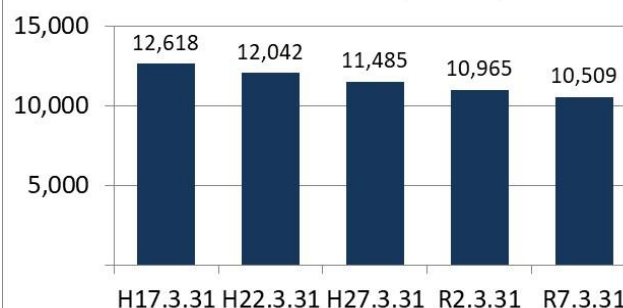
さつきが丘中学校区(40地区)



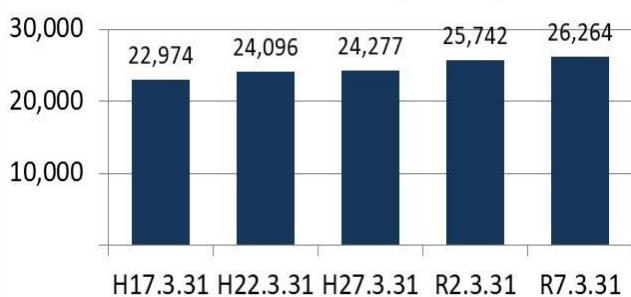
犢橋中学校区(42地区)



朝日ヶ丘中学校区(46地区)



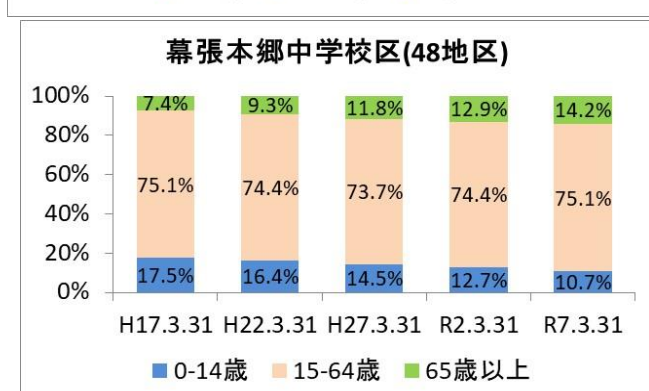
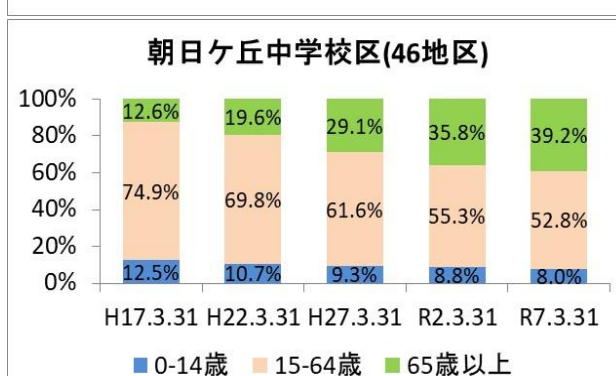
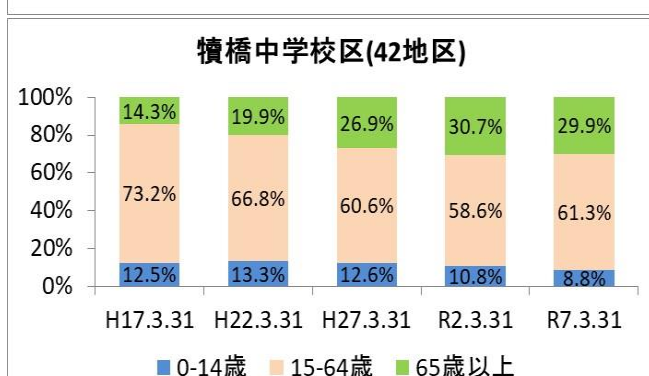
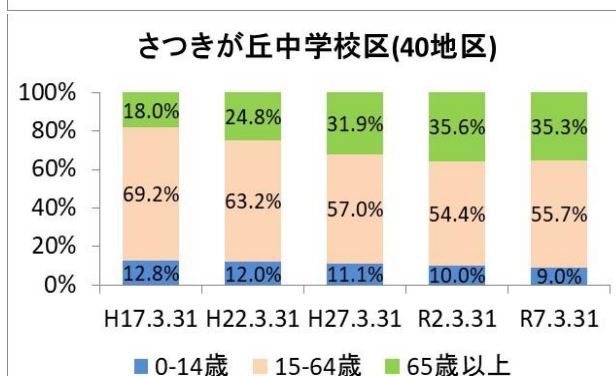
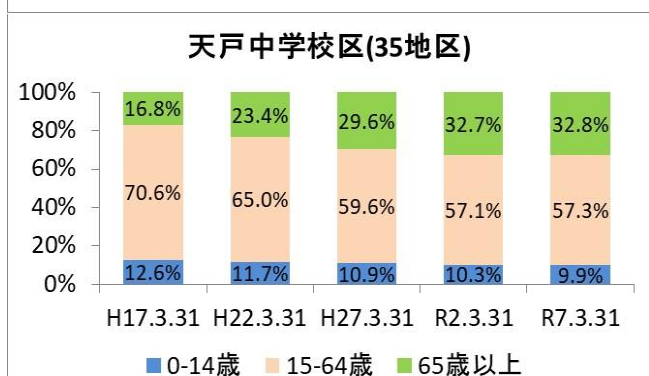
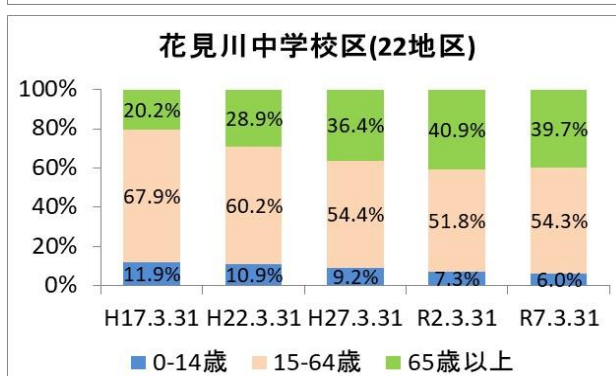
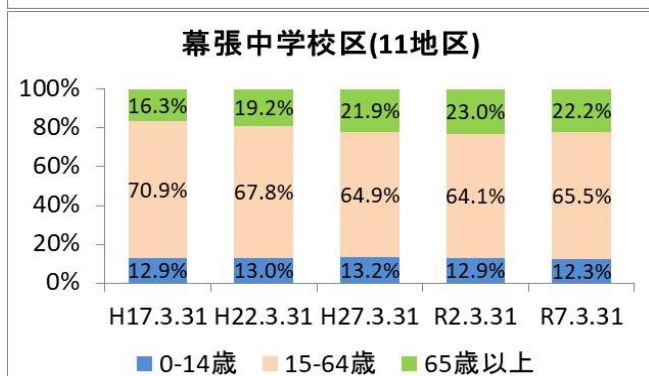
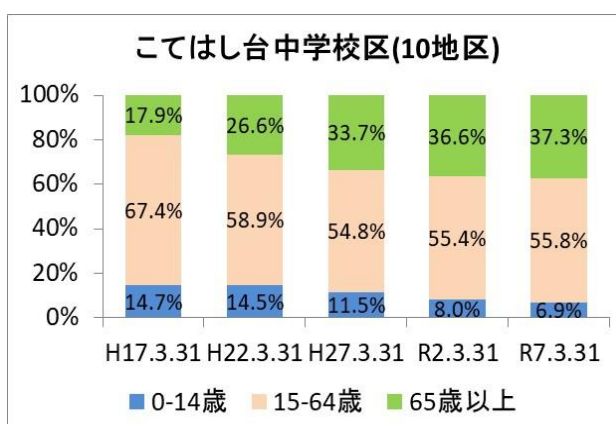
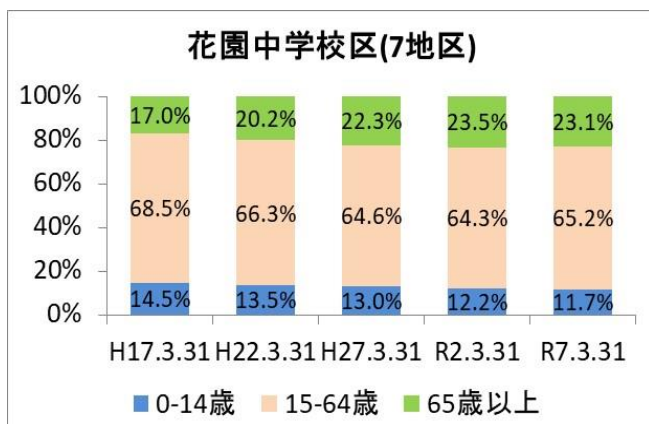
幕張本郷中学校区(48地区)



(ポイント)

- ・区全体としてはゆるやかな減少傾向にある中において、花見川中学校区(第22地区)、さつきが丘中学校区(第40地区)、朝日ヶ丘中学校区(第46地区)では減少が著しい。
- ・一方、花園中学校区(第7地区)、幕張中学校区(第11地区)、幕張本郷中学校区(第48地区)では増加を続けている。

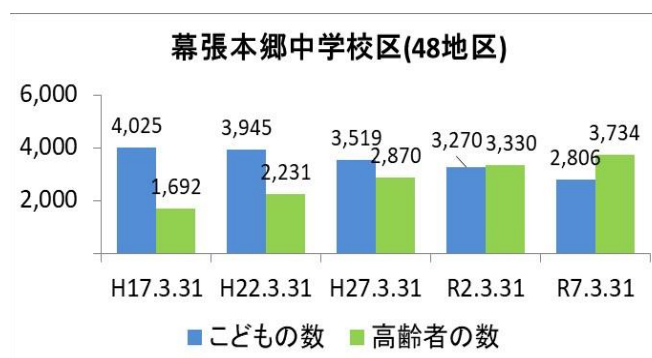
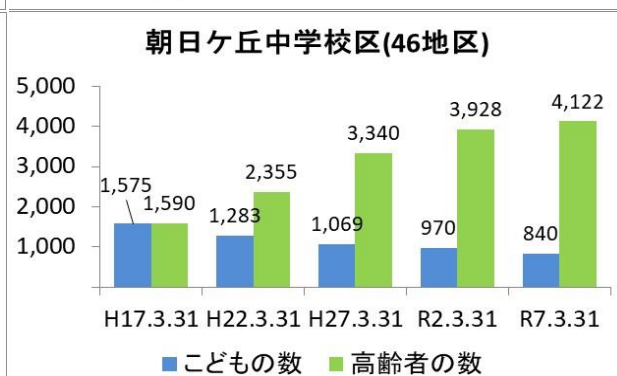
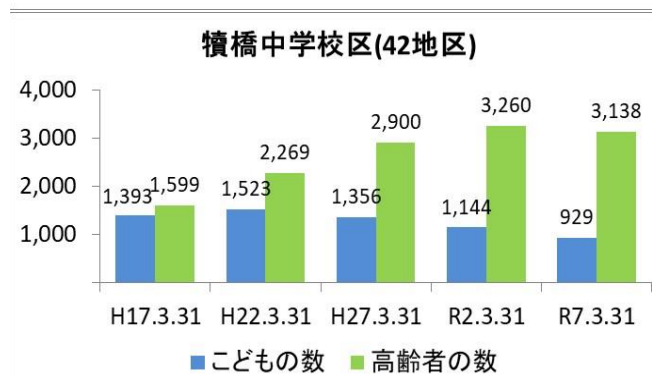
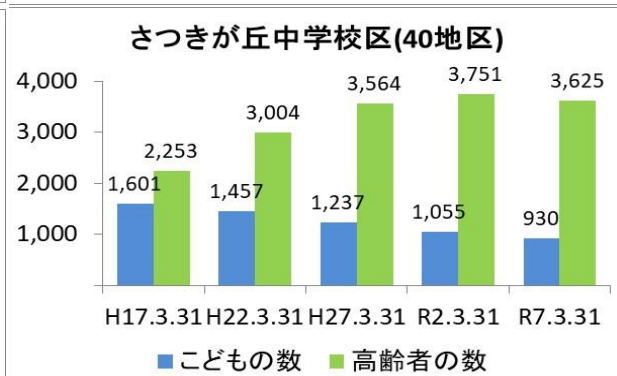
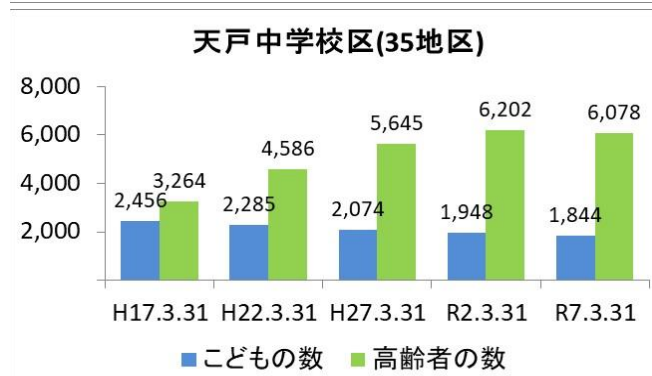
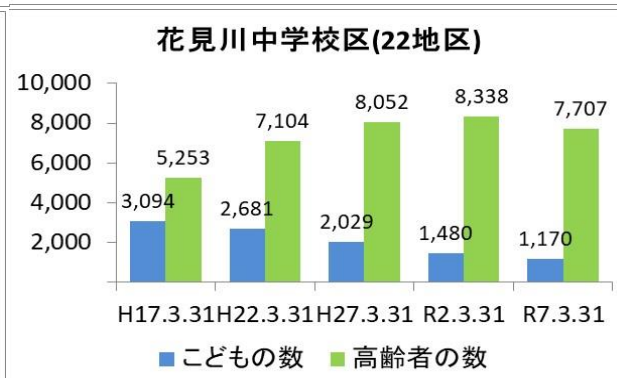
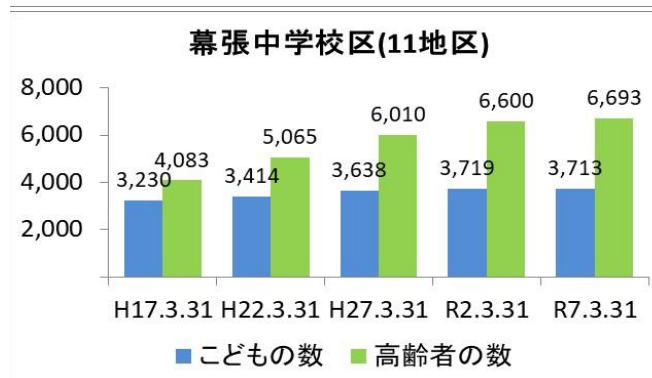
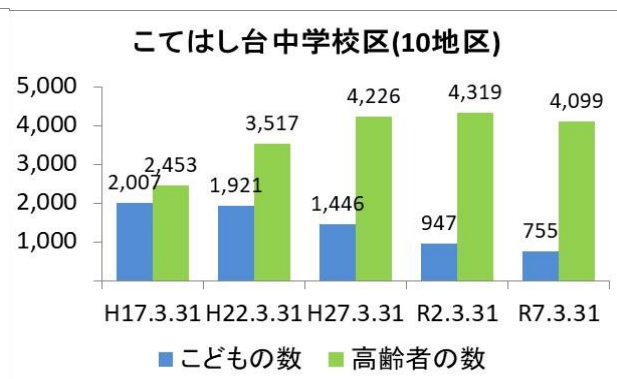
【年齢別人口構成の推移】



(ポイント)

- ・全体として高齢化が進んでいるが、人口減少地区ほど高齢化の進み方が顕著であり、人口が増加している花園中学校区(第7地区)、幕張中学校区(第11地区)、幕張本郷中学校区(第48地区)では比較的ゆるやかである。

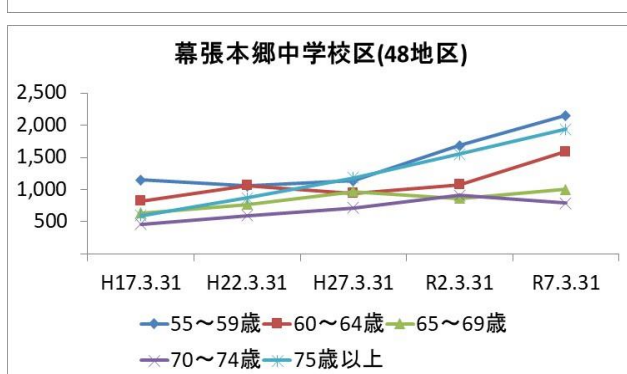
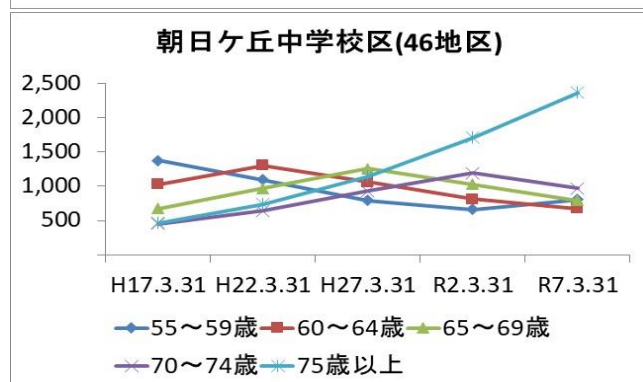
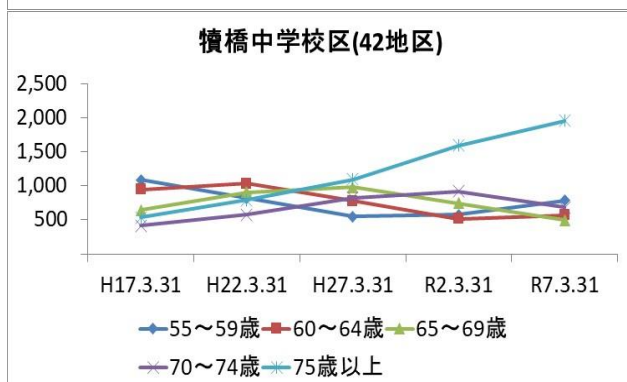
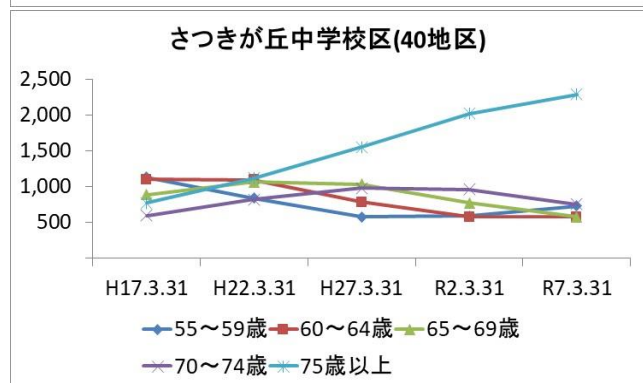
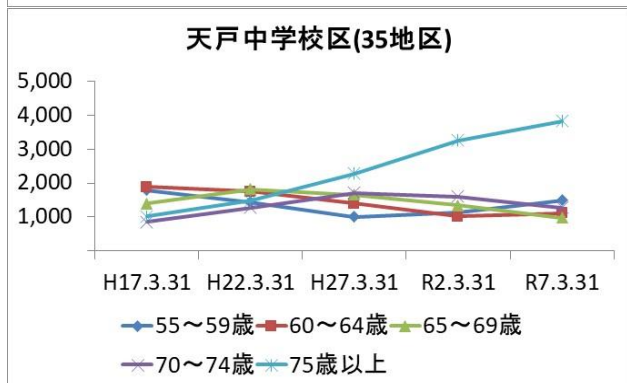
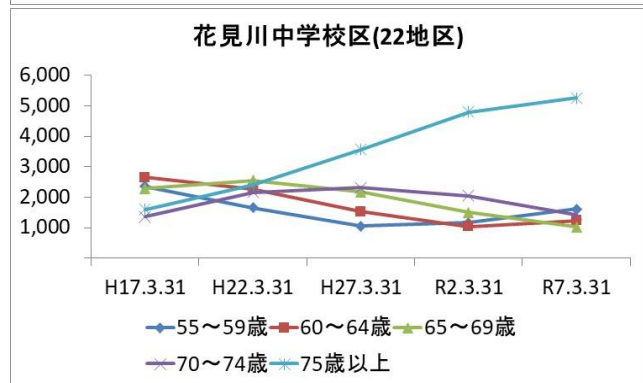
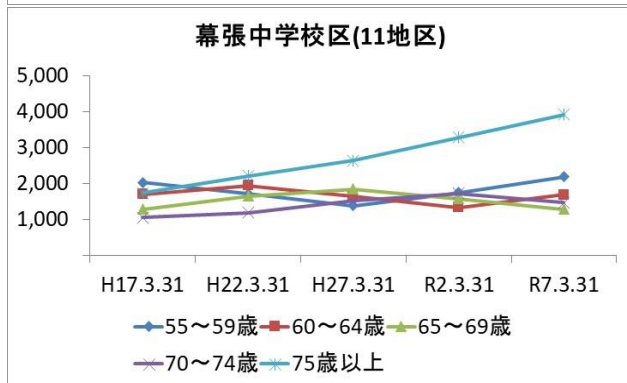
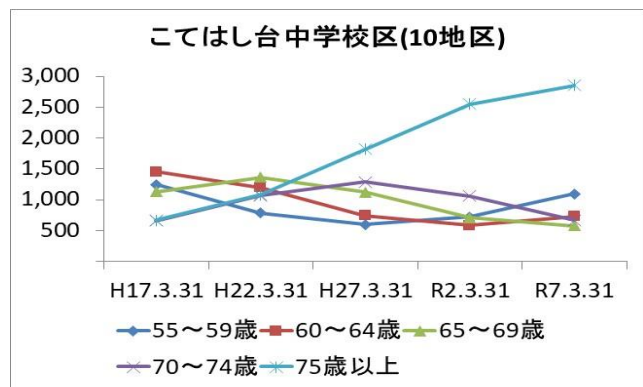
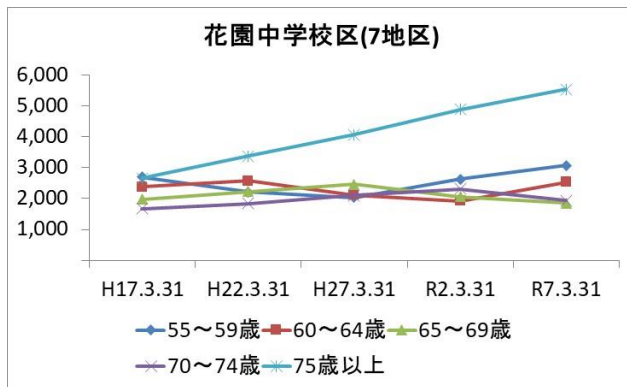
【こども・高齢者数の推移】



(ポイント)

- ・ こどもの数が20年前は3つの地区で高齢者を上回っていたが、平成20年からは幕張本郷中学校区(第48地区)以外は高齢者がこどもを上回り、令和2年ではすべての地区で高齢者がこどもを上回っている状況である。
- ・ こどもの数は、幕張中学校区(第11地区)を除いて減少傾向にあり、特に人口減少地区のこてはし台中学校区(第10地区)、花見川中学校区(第22地区)、さつきが丘中学校区(第40地区)、朝日ヶ丘中学校区(第46地区)で著しい。

【高齢者・同予備軍の推移】



(ポイント)

- ・ 75 歳以上人口は全地区で増加しているが、65～69 歳人口は減少傾向にあるため、今後 5 年間では高齢化の伸びは鈍化するものと推測される。
- ・ 一方で、幕張本郷中学校地区は、55～59 歳及び 60～64 歳人口が多いため、今後 20 年程度の間には高齢化が進むものと推測される。